

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社ライフステージ		
事業所名	グループホームひだまりAユニット		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成24年2月6日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

冬期間以外は外気浴と健康維持のために散歩に行きますが、地域の方々とおしゃべりをしたり、火ばさみでゴミを拾いながら社会貢献を感じたり、季節の変化を楽しんでいます。外に行けないような時は室内での歩行運動、ラジオ体操、足あげ・健口体操を日課にとりいれています。馴染みがあり、季節感のある曲を大正琴の伴奏で歌ったり、本の朗読や、昔の話を元におしゃべりをして過ごしたり、入居者さんは毎日「できることを頑張る」を忘れずに楽しみながら現在の身体状況を維持していこうとしています。認知症を理解するためにセンター方式を利用していますが、入居者さんの思いを感じることができ、スタッフ間での情報や工夫の交換が積み上げられて介護に生かされており、スタッフも楽しくやりがいい職場と感ずることができるようになってきました。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901613&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<個別ケアの実施>
一人ひとりの力を活かしながら洗濯や掃除、食後の後片付けや茶碗洗い等を行ったり、その日の希望にそっていつでも散歩に出かけられるように支援している。また、パークゴルフを楽しんだり、図書館で好きな本を借り読書したり、雪はねやいもだんご等のおやつ作り、刺し子やお祭りの飾り作り等生活歴や力を活かした趣味への支援が行われている。

<家族との関係づくり>
家族には、利用者の一日の特徴的な様子を職員が日々観察し、「一日一行日誌」を毎月情報発信していると共に家族や地元の人々が参加する「ひだまり交流祭り」を開催して、本人・家族・職員との関係づくりに努め、自宅への訪問等で本人との関係が途切れないように支援している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれあい」「支えあい」「思いあい」「語り合い」「広げあい」の5つの「愛」を掲げ、家族や地域の方々とは話す機会を作り、実践につなげている。	事業所独自の理念を作り上げ、見やすい場所に掲示し、家族や来訪者等に分かるように掲示し、内部研修を通じて話し合い、職員間で共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年ひだまり祭りを開催し、地域の人々や家族、ボランティアとの交流を行っている。また、日常の散歩や買い物での挨拶、中学生の体験学習の受け入れ等で交流を深めている。パークゴルフ場に行く地域の方々に受け入れられていると感じることがある。	保育園や幼稚園の運動会見物や中学生の体験学習を受け入れ、パークゴルフ参加で地域の人と交流をしている。また、「ひだまり交流祭り」を開催し、地域の人々や家族、ボランティアとの交流や日常の散歩や買い物での挨拶等で交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談にかかわらず、介護保険またその他の相談に来られた方に対して、役立つと思われる情報を提供している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目標に開催し、地域の方々や家族、市職員に参加していただき、サービスの向上を目指している。	運営推進会議は、年6回を目安に開催し、利用状況やサービスの内容、火災避難訓練や地域との協力体制について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われている研修には積極的に参加しており、運営推進会議には市職員の方も出席をお願いしている。	市や包括支援センター主催の研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない介護を目指しており、何が原因なのか十分検討することで拘束をしないケアを行ってきた。職員は排泄の管理・運動不足の解消・寂しい気持ちの共感等を行うことで落ち着くことが多いことを勉強会を通して理解している。	代表者および全ての職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会を設置し、内部研修会等を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、勉強会を行い、どういことが虐待なのかという認識があり、職員全員が虐待しないよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会に参加することで理解している。必要な方には活用できるよう勧めていきたいと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時、または解約を行う時には入居者やご家族の納得のいくまで十分時間をかけて説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見・要望を聞き取りながら、モニタリングをし、プランに反映させている。家族等の来訪は多く、意見・要望を言いやすい関係を築けるように努めている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。また、家族等の来訪が多く、意見や要望等よく話し合うよう努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議を行い、状況・提案や意見を聞くようにしている。	日々の引き継ぎや全体会議を通じて、意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案を運営に反映するよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の身体状況、生活状況に合わせ、必要な時間帯に人員を配置している。シフトを工夫した結果、個別ケアが可能になり、職員は仕事にやりがいを感じている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修に積極的に参加することを勧めている。また資格習得には資料や情報を提供することで応援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは包括支援センターを通じて定期的に交流している。他のホームと情報交換をすることで自分たちが井の中の蛙にならないよう、現状で満足して終わらないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面接の時間を十分にとってこれまでの生活の中での本人の思いを聞き、受け止めるようにしている。入居まもなくは特に不安な気持ちがあったり、困ったりすることも多いと考え、そばに寄り添う時間を多くしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時にお話しさせていただいたり、一行日誌・ひだまり通信を郵送し日常の様子をお知らせしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から面会の時間を十分にとり、これまでの生活の中での家族の思いや不安なことを聞き、受け止めるようにしている。何が今必要な支援なのか検討し、他のサービスも含めて情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の力量を見極め、ともに行えるものを探ささまざまなことを一緒に楽しんでいる。その中で、人生の先輩として職員が教えてもらうことは大いにあとと感じている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、家族に近況報告・情報交換を行い、状況に変化が見られた時には相談に乗ってもらい介護計画に反映している。本人を支えるために家族の存在はもっとも重要と考え、面会の制限は行わず、お誕生会・ひだまり祭りへの招待、外出行事への参加をお誘いしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの情報収集やアセスメントを丁寧に行い、日々の様子を把握しながらで入居前と変わらぬ交流ができ、孤独感に陥らないよう個別ケアに努めている。	図書館で好きな本を選んだり、散歩では地域の一員としてゴミ拾い等を行ったり、自宅への訪問や買い物等の外出支援で馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由にホールに出入りしているが、孤立している様子が見えるときは職員が間に入り、共通点を見いだし、話題を盛り上げたり一緒に取り組んだりして関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受ける体制が出来ている。長期入院になり退去された方のご家族より様々な相談を受けることがある。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や状態を把握し本人の希望を出る限り実現できるように個別ケアに力を入れている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、日常的な散歩や買い物、雪はねや刺し子等の役割や趣味への支援を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・交流のあった方々からの情報収集並びにこれまで関わってきたサービス事業所と連携を取り、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化に応じて個別アセスメントシートを変更し、身体状況の変化、生活パターンを把握している。一日の流れをその日の勤務者が介護記録に記入して全職員が閲覧できるよう保管されている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を確認し、日々の申し送りで意見交換を行いながら職員の意見や気づき・介護記録やセンター方式での分析を反映させ、介護計画を立てている。	センター方式を活用して生活歴等のアセスメントを把握し、本人や家族等の意見・要望を採りいれた現状に即した介護計画を作成している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて、職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が入力されている介護記録に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を記入している。職員はいつでも閲覧できるようになっており実践・介護計画の見直しに生かすことが出来ている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて病院への受診や医師・看護師の往診、訪問理美容・マッサージ、散歩・買い物・外出、ユニット間で行われるひだまりクラブへの参加等柔軟な支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・町内会長には地域運営推進会議への参加をいただいている。また、避難訓練を通して消防機関とも連携を取っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望・同意のもとかかりつけ医を決定する。それぞれが定期受診に加え、緊急時に相談したり、往診してもらえかかりつけ医を確保している。1回/週の看護師の訪問もあり、職員では把握しきれない健康管理や24時間の相談を受けてもらっている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や訪問看護師との連携等で24時間の相談ができ、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に看護師が訪問し、健康管理と相談に載ってもらう。また、異変があったら、24時間体制で指示を仰ぐことが出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時同行しているため、ほぼ入院前より病院関係者と情報交換している。入院中もなるべく多く職員が訪問し、早期の退院に向けて連絡を取り、指示に従っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	半年に一度のモニタリング毎に終末期のあり方について本人・家族としっかり話す機会を作っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに医師や看護師に連絡がつくよう連絡先が掲示されている。急変時マニュアルがあり、AEDも設置されている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回防災訓練を行っている。	消防署の協力を得ながら年2回の火災避難訓練を実施し、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備の定期点検も行われている。	今後は、地震や水害等の緊急時の避難方法等についても詳細に検討しているので、その実践に期待します。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ自分でやる誇りを大切にしながら、職員は言葉をかけ、また記録にはプライバシーとプライドに十分配慮している。	身体拘束廃止委員会等での内部研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あくまでも入居者本位の自己決定となるよう働きかけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ホームで決まっていることといえば、おおよその食事・おやつ時間・入浴日くらいである。個々人がその日にしたいことを優先し、自分のペースで日々生活してもらっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、身だしなみやおしゃれを楽しんでいる。自分で選んだ洗濯のいきとどいた清潔な衣服を着たり、手足の爪を短く切り清潔にしたり、また訪問理美容が主であるが、カットだけでなく、パーマをかけたり毛染めをしたりとおしゃれを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの食べやすい形を考慮し、ゆっくりとご自身のペースで食事を取っている。季節に合わせた手作りメニューが多くあり、食べることが楽しみとなるよう提供している。また、能力に合わせ、準備・片づけに参加している。	食事が楽しみなものになるように一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。また、嗜好の把握や季節感が感じられるような献立を工夫している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を把握しており、体調によって水分を増減したり、食事の形態を変えたりして提供している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいは習慣化され、声かけにより個々人の状態や能力に合わせた援助が行われている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で確認し、声かけやトイレ誘導をしている。また、運動の機会を作り便秘予防につなげている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。また、嚥下体操やラジオ体操、歩行訓練等身体機能の維持・向上に努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏状況と便秘の関連を意識しその時に応じた薬の調整をしている。日々歩行運動や体操をしたり、水分摂取量を調整したりと働きかけを行っている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴であるが、その日の体調や希望に合わせて変更が可能になっている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2～3回の入浴を目安に入浴支援をしている。また、拒否の強い利用者にも状況に応じた支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせてゆっくり過ごせるように心がけている。職員は睡眠状況を把握しており、その時に応じ休息できるよう支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容が一括してファイルされており、いつでも確認できる。飲み忘れ・誤薬がないよう職員が何重にも確認するようになっている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせ、食器拭き・掃除・おしぼりたたみ・除雪をしていただいている。また、ボランティアとして商店街のお祭りのくす玉作りを楽しみながら作成している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外天候が許す限り毎日の散歩は基本であるが、季節を感じていただける場所に出かけたり、個々人の希望に沿い、買い物・図書館・パークゴルフなど外出の機会が多くある。	毎日の散歩や桜見物、自宅の訪問や買い物、畑作業やパークゴルフ、弁当持参でドライブ等戸外に出かけられるよう支援している。お祭り見物や図書館訪問など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせて事業所側でお小遣いを預かっているが、買い物の機会を作り、自分で選び自分で支払う喜びを感じてもらえるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時にかけている。手紙は本人の能力に応じて書き、また届いたときには読んだりと援助を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには自然と集まってくつろいだり、交流の場として気持ちの良い空間となっている。季節感のある飾り付けにより目でも楽しんで、テレビはつけっぱなしにならないように、また音量は大きすぎないように十分考慮している。温度・湿度・換気をチェックし、調節し居心地良く過ごせるように環境整備を意識的に行っている。	家族等が来訪し易いように広い駐車スペースが用意され、共用空間には、一人になったり、談笑ができるようにソファや椅子・テーブルが配置されている。中学生が訪問した時の写真や利用者の刺し子や習字等の作品が飾られる等本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではソファや一人掛け用の椅子を数か所置き、自由に過ごせるように配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族に、自宅となるべく近い状態で過ごすことの必要性を説明し、馴染みの家具・調度品を持ってきていただいている。好きなものを持ち込み少しでも居心地良く安心して過ごしてもらえるようにしている。	居室には、本人の好みに合わせてお人形や手作りの作品、家族の写真など家族と相談しながら飾り、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は玄関に13センチの上がり框があるのみですべてバリアフリーになっている。階段は滑り止めマットが敷かれ、エレベーターも整備されている。また不要なものではできるだけ置かないようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社 ライフステージ		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の日々の暮らしを一日日記に記載し、ホームでの様子を毎月家族に送っている。
 ・ユニット内での出来事や催しなど通信にてお知らせし、普段の生活状況を理解していただく。
 ・日常生活で、家族希望・要望があれば、遠慮なく伝えて頂けるように日頃より通信で呼びかけたり、ご家族が来られた時に声かけをしている。
 ・ご本人の気持ちを考えながら、充実した日々が送れるように支援していく。
 ・理念に基づきその人らしい生活が営めるよう感謝の心で支援し、より良いグループホームづくりに努めていきたい。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901613&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれあい」「支えあい」「思いあい」「語りあい」「広げあい」と5つの「あい」の理念を掲げ、職員が共有し、入居者が自分らしく暮らしができるように、温かな環境作りを目指している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園の行事(おゆうぎ会、運動会)へ参加、又地区の中学生がボランティアとして活動してくれている。夏には散歩に外に出て、近隣の人達と挨拶を交わし交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえて、地域の会合に参加し認知症ケアについて話し合っている。また人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族、地域の方々、市の担当者の方等多くの参加をつとめ、現状を報告し様々な意見やアドバイスをいただいている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市で行われている研修会に参加、また運営推進会議に市の担当者へ出席してもらい、実情を伝え協力関係を築き、サービスの資質の向上に取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り、拘束が行われなかったかを確認する。入居者の見守る方法を徹底し、日中は玄関に鍵をかけずに一人一人自由に暮らせるよう支援している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内でのミーティング時に、勉強会を実施し虐待に対する認識を高め、全職員が認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の成年後見制度の研修に参加し、ミーティングで勉強会を行なった。必要時に適切な判断ができるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書を用いて項目ごとにわかりやすく説明し、疑問があれば何んでも気兼ねなく話していただける環境を作よう心がけている。退去時に関しても、説明をし理解を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や希望などを確認し、いつでも気軽に意見をいただけるように心掛けている。日頃話しやすい環境を作り、玄関には苦情箱を設置し、意見等があれば、カンファレンスで話し合いをしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や、年2回個人面談を行い、ケア内容の充実に活かしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が同じレベルに達し、効率良く業務ができ、仲間意識が持てる様に取り組んでいる。必要時は悩みや相談を受け入れ、働きやすい環境作りをしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた外部研修に参加しやすい様にしている。研修後は勉強会を行い、職員が知識を共有し同じケアの方向性を持てる様に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括を通じ、近隣のグループホームを集め研修を設けていただき、意見交換やお互いの施設の見学会を行っている。情報交換をしながら、よい介護施設が維持できるように心がけている。また市内のグループホーム協議会に登録し、連絡等を図りサービスの向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の面接の段階で、十分な話し合いをし、本人の生活スタイルに応じた場面を提供できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホーム入居する前に、家族が求めていることや不安なことを把握し、こちらとしてはどのような対応ができるのかを、事前に話合いをして理解していただいている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面接を行い、家族や各方面より情報を得て、十分に検討し何を必要としているかを見極めサービス提供につなげている。ご家族が求めていること、不安に思っていることなどをしっかりと把握し、ホームとしてどのような対応ができるのか、事前にじっくり話し合いをしている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、目上の方である入居者を尊敬し、一人一人の性格、生活の背景を理解して、良い関係を築き共に生活をしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護している中で、気付いた事やアドバイスなどを家族に伝え、本人の立場になって考えていき支え合っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等への行事の参加を呼びかけたり、外出支援をしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立する事がないよう、食事の席を考え互いに声を掛け合いやすいようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談を受ける体制は出来ている。退去された方の家族や転居先の施設から、様々な相談を受けることがある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々様子を把握しながら、本人の希望を出る限り聞き入れ、実現できるようにケアしている。困難な場合は、納得できる様に本人と話し合っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の関わりを大切に、優しく声かけし、本人の思いや希望を表に出し、自己決定できるように配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過を記録に残し、スタッフ間で情報を共有している。日々の生活の中から心身の状態を把握し、有する力を見出すよう努めている。また日々の変化を見逃さないようスタッフ間の連携を深める。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月11日～19日の夜勤者が1人1人のモニタリングを行い、月1回のミーティングや申し送り等で話し合って情報収集や意見、アイデアを出し合い介護計画に反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の情報を全職員が把握できる様、記録方法の工夫や申し送りノート、受診記録等細かく記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者として対応できる範囲で、本人や家族と相談し支援できるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会に加入し、町内行事参加、おみやりの配布等で地域住民の理解を得られるよう努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望、同意をもとにかかりつけ病院の往診を定期的に受けている。又、体調が悪い時は速やかに連絡し、指示をもらい対応している。歯科医も必要時往診に来てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や疑問に思ったこと等を、毎週火曜日に来る訪問看護師に伝えている。医療機関、看問看護師による医療連携体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も医療機関と情報交換をしている。常に連絡を取り合える関係づくりが出来ている。また、入院時情報提供書を提供している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やが主治医と連携を取り、ホームで出来る事を十分に説明し共有していく。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は、素早い対応が出来る様、医師などへの連絡先が掲示されており、急変時マニュアルがありAEDも設置されている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜勤時を想定して、年2回避難訓練を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々にあった対応声かけを行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の関わりを大切に、優しく声かけをし、本人の思いや希望を理解し、自己決定できるように配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態に合わせて、自己決定ができるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや体調、季節にも合わせて支援している。整容も毎日行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や旬の物、行事食盛り付けなど工夫している。飲み込みが上手くできない方には、刻み食やトロミを付け、誤嚥がないように見守り介助している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を把握し、医師とも連携の上、個々の状態に合わせ、適切に摂取できる様支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きを行っている。義歯、口の中を清潔に保つようになっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。又本人の尿意、間隔等を配慮し、状態に合わせた下着、リハパン、パットの使い分けをしながら自立に向けた支援をおこなっている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、適度の運動をすすめている。又、医師の処方による下剤を、個々の状況に合わせて服用し排泄管理ができています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態を確認しながら、週に2度入浴できるようにしている。状況に応じてシャワー浴、清拭、足浴で対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の体調を、日々の状態を把握している。就寝時は寝つきが悪い方には、無理に寝てもらわず、ホールで過ごしてもらい水分補給など柔軟に対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の処方箋をファイルしてあり、1日分の薬をセットする箱がある。朝・昼・夕と色分している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持つことで、充実した生活を送っていただけ様、簡単な作業をお願いし、援助したり出来る事を楽しく行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を散歩したり、季節を感じられるような場所にドライブに出かけるように支援している。また、毎月各ユニットごとでも、互いの入居者が交流出来るような支援も行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じた対応をしている。職員と一緒に買い物をし、自分で選び自分で支払う喜びを感じてもらえるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書くことはなかなか難しいが、手紙をもらおうと喜んで見ている。職員と一緒に読みながら楽しんでいる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度の確認、換気は1日数回行っている。穏やかに過ごしていただけるよう、お花を飾ったり季節感のある飾り付けなどしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食席で、気のあう入居者さん同士で談笑したり、思い思いに過ごして頂いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた大切な物や、使い慣れた物を置いたり居心地のよい環境を作っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの入居者が多い為、自走しやすい様なスペースを確保し1人1人に合わせた生活を送って頂く様にしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームひだまり

作成日: 平成 24 年 3 月 2 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	マニュアルを作成し活用しているが、職員の応急処置等についての定期的な訓練が不十分である。	定期的な訓練および勉強会を実施する。	消防署の指導を受け、心肺蘇生法及びAEDの操作訓練を実施する。応急処置等の勉強会を定期的実施する。	6か月
2	35	火災訓練は年2回実施しているが、地震・水害等の災害避難訓練は行っていない。災害時における地域との連携関係が具体的でない。	地域にあった効果的な訓練を実施する。災害時における地域との協力関係を構築する。	火災のみならず、地震・水害の災害時対応のマニュアルを作成する。地域住民参加型の避難訓練を実施する。	6か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。